

松尾宮山1号墳の石室と石棺

大きな岩を積んで
つくったのだ!



松尾宮山古墳群

県指定史跡

古墳時代

(1800年前〜1400年前)

横穴式石室と石の棺おけ

松尾宮山古墳群は現在の高月町にあり、付近には古保利古墳群や姫塚古墳があります。3基以上の古墳で構成されていたと考えられていますが、現在、古墳群は2基の古墳が確認されているのみです。これら以外の古墳は、すでに壊されてしまったと考えられています。

横穴式石室を持つ古墳であり、石室の中には石で作られた棺おけである「石棺」が置かれていました。出土した土器などから古墳時代の終わりごろ（1300年前ごろ）につくられたと考えられています。

長浜市の遺跡 5

長浜市高月町松尾
平成11年3月31日指定

石室と石棺

◆ よこあなしきせきしつ 横穴式石室 ◆



1号墳の石室



2号墳の石室

横穴式石室は、トンネル状の入口と棺おけを納める部屋を持っており、石でつくられています。

松尾宮山古墳群は1号墳と2号墳がすでに調査がされており、両方とも横穴式石室を持った古墳でした。

天井の石はすでに抜き取られてしまっていたが、大きな石を積み上げて壁が作られています。

全体にかかる土の重さに耐えられる石室を作るためには高い技術が必要だったことでしょう。

石の部屋を作った中に棺おけを置いたのだ！



◆ 遠くから運ばれた石棺 ◆

石室の中には石でつくられた棺おけが置かれていました。1号墳のものは大きな石をくりぬいて作ったもので、家の屋根の形をした蓋が残っていました。2号墳のものは何枚かの板状の石を組み合わせて作られています。この中に遺体と副葬品が納められました。

石棺の石の材質を詳しく調べたところ、1号墳の石棺は兵庫県で、2号墳のものは奈良県でとれる石を使って使われていることがわかりました。

石棺から、松尾宮山古墳群は、近畿地方の中心の勢力と深い関係があったことがわかります。



出土した遺物

◆ 鉄刀



石室から出土したと伝わる鉄の刀です。現在残っている長さは約 40 cm ですが、先のほうが折れているため全体の正確な長さは不明です。刃の部分と柄の部分の間に文様が描かれています。

◆ 鉄鏃 (鉄のやじり)



矢の先につける鏃です。古墳時代には弓矢は重要な武器として扱われており、多くの古墳から出土します。いずれも鉄でできています。

遺跡から出土する鉄製品はさびてボロボロになっていることがほとんどで、取り上げた後もさびが進んでいくため、取り扱いの難しい遺物のひとつです。

◆ 馬具



左の写真は「馬具」の一種で、鞍につける金具です。馬に乗るための道具や技術も古墳時代に大陸から伝わりました。



どきほかぶき
土器の他に武器や
アクセサリが出土したぞ

◆ 耳環



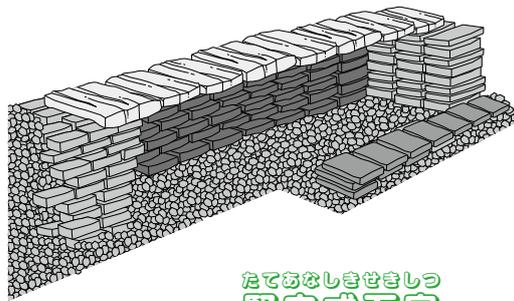
左の写真は古墳時代の耳飾りです。銅を曲げて作られた芯に金や銀を薄く貼り付けて作られています。高価な金や銀を使っていることから身分の高い人が葬られていたことがわかります。



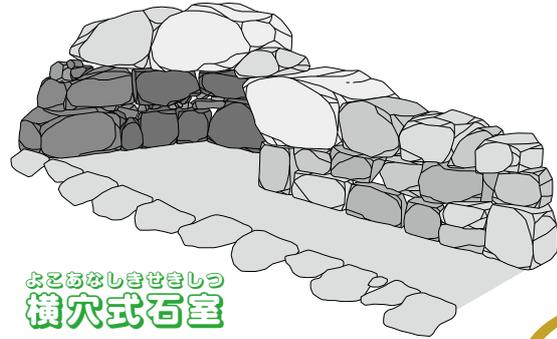
古墳の「埋葬施設」のうち、石を積み上げて作られたものを「石室」と呼びます。石室は主に「竪穴式石室」と「横穴式石室」の二つに分けられます。

「竪穴式石室」は、古墳に長方形の穴を掘り、穴の壁に板状の石を積み上げて保護し、中央に棺を置くものを言います。古墳時代の初めから中ごろにかけてつくられました。大きな板状の石を石室の上からかぶせて塞ぎ、基本的に一度しか使用しないのが特徴です。

これに対して「横穴式石室」は大きな石を積み上げ、トンネル状の通路と棺を納める部屋が作られたもののことです。古墳時代の中ごろから終わりごろまでつくられました。入り口部分を除いて墳丘の土の下に埋められていましたが、一度棺を納めた後でも入り口を塞ぐ石を取り除けば再び使用でき、後から亡くなった家族なども同じ石室に葬られました。



たてあなしきせきしつ
 竪穴式石室



よこあなしきせきしつ
 横穴式石室



旧町配置図

● 交通アクセス

公共機関：JR 北陸本線「高月駅」下車、高月観音号「松尾」下車徒歩5分
 車：国道8号線「物部口」交差点を西へ約2km

● お問い合わせ

ながはましぶんかざいほご
 長浜市文化財保護センター
 〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町981 TEL 0749-64-0395